

昭和興産、海外で攻勢

広州に車関連材料を拡販 分公司

昭和興産は海外展開を強化する。中国では「昭和興産（上海 貿易有限公司）の広州弁事処（連絡事務所）を3月に分公司へ昇格、主に自動車産業に向け関連材料を販売していく。各種商材を幅広く取り扱っている上海拠点と機能を分担することによって中国市場で事業展開を推進する。今後は東南アジアでの新たな拠点として、ベトナム進出を検討していく。

ベトナム進出を検討

昭和興産は中期経営計画「SK2020 価値創造企業への挑戦」で、2020年度（1～12月）に売上高1000億画（円）（国内外単純合算）の達成を目標としている。海外での事業拡充と営業力強化、国内事業基盤の強化、事業構造の改革推進を営業戦略のテーマとしている。海外事業拡充については、タイと上海、インドネシア、香港に現地法人



昭和興産（上海）貿易有限公司の広州分公司が入居するビル

を保有。16年4月には広州で上海現法の弁事処を立ち上げている。同社は海外展開を強化するうえで、拠点の新設や拡充および閉鎖など選択と集中を推進している。中国では広州の弁事処

を分公司に昇格させ、3月から新たなスタートを切った。自動車産業が盛んな地域であるため、主に同地に進出している日系企業を対象として自動車向け樹脂コンパウンド、ウレタン原料など関連材料の販売を推進。今後はローカル企業への販売も促進していく。

上海現法では樹脂原料および樹脂を中心としながら食品、家庭用品関連など幅広く商材を扱っている。広州とは市場が異なるため両拠点で役割を分担し市場を開拓、将来的には広州拠点の現地法人化も検討していく。一方、香港現法は4月末をめどに閉鎖する予定で、今後はその機能を上海、広州の両拠点が担っていく。

インドネシア現法では化学品の販売に加え、プリンター用パーツの販売が好調。14年度から単月で黒字化を達成しており、18年度には単年度での黒字化達成を、中計の最終年度となる20年度には累積の解消を目指す。医薬品×1カーの進出なども考慮し、次世代テーマの探索を進めていく。タイでは、子会社「昭和興産タイランド」が大日化学工業およびタイのフォルモサ・オーガニックス・ケミカル（FOCI）とともに展開している金風石けん事業について、販売をインドネシアなど東南アジア諸国および日本へと広げていく。

東南アジアでの新拠点開設では、タイプラスワンの観点からベトナムへの進出を検討している。現在はタイ拠点からアプローチしているが、今後、顧客の進出が想定される

ため動向を注視していく。